

長浜曳山祭 関連年表

- 一〇六九年 長濱八幡宮ができたと伝えられる
- 一五七四年 この頃太刀渡りが整えられたとされる
- 一六四六年 太刀渡りが町年寄十人衆から長刀組で行われるように変わったとされる
- 一七四五年 宮町組山（高砂山）が最初に建造されたという
19世紀前半ごろまでに13基建造された
- 一八四〇年 日本各地の芝居13箇所の見立て番付で西の三段目となる
- 一九一七年 12基の曳山が出場し、狂言を行った最後の年
- 一九一八年 第一次世界大戦のため中止
- 一九一九年 出番山6基交替となる
- 一九三七年 第二次世界大戦のため11年間奉納狂言が途絶える
- 一九四八年 市制5周年を記念して高砂山、孔雀山、常磐山で狂言を行う
- 一九五〇年 曳山巡行と子ども狂言が長濱八幡宮の春の祭として復興
出番山は3基交替となる
- 一九五二年 曳山巡行、太刀渡りともに4月15日に行われるようになる
- 一九五四年 出番山が4基交替となる
- 一九六七年 長浜曳山祭協賛会結成される
- 一九七一年 長浜曳山狂言が国の無形文化財として選択される
長浜曳山祭囃子保存会結成される
- 一九七九年 長浜曳山祭が国の重要無形民俗文化財に指定される
以後5年連続で全基が出場する
長浜曳山祭保存会が結成される
- 一九八四年 長浜曳山祭の保存活動がサントリー文化財団の地域文化賞を受賞
- 一九八五年 長浜曳山祭の13基の山車と13の山蔵が滋賀県有形民俗文化財に指定される
- 一九八八年 三番叟演者が公募となる
- 一九九〇年 三役修業塾が開講される
- 一九九一年 全国曳山子ども歌舞伎サミットが長浜で開催される
- 一九九三年 長浜市制50周年を記念し、修理中の鳳凰山を除く12基が勢揃いする
曳山子ども歌舞伎のアメリカ公演（ワシントンDCとミシガン州で披露）
- 二〇〇〇年 曳山博物館開館
- 二〇〇六年 長浜市・浅井町・びわ町の合併を記念し、全13基が御旅所に勢揃いする
- 二〇〇七年 長濱八幡宮別表神社昇格を祝い90年ぶりに同宮に12基が勢ぞろいする
- 二〇一〇年 長浜市と湖北6町の合併を記念し、修理中の月宮殿を除く12基が御旅所に勢ぞろいする
- 二〇一四年 国指定重要無形民俗文化財の「山・鉾・屋台行事」をグループ化して、無形文化遺産登録をユネスコに提案
ユネスコの審査件数を上回る提案件数があったため「山・鉾・屋台行事」の審査が1年先送りされる
長浜曳山祭ユネスコ無形文化遺産登録推進会議発足
- 二〇一五年 文化審議会世界文化遺産・無形文化遺産部会において、「山・鉾・屋台行事」の再提案を決定
- 二〇一六年 高円宮殿下記念地域伝統芸能賞受賞
長浜曳山祭が全国32の山・鉾・屋台行事とともにユネスコ無形文化遺産に登録される



ユネスコ登録推進事業



子ども歌舞伎アメリカ公演



子ども歌舞伎サミット



三役修業塾発表会



保存会のしゃぎり指導



市制5周年記念



明治41年秋長浜曳山祭

曳山行事の紹介

曳山交替式（4月第1土曜）



出番の曳山が山蔵に戻り、次年度出番の曳山が博物館に入ります。

線香番（4月9日）



4月9日總当番が各山組の稽古場を訪問。狂言の時間をはかります。

裸参り（4月9日～12日）



午後8時頃から、若衆が役者の健康と狂言奉納のくじ順を祈願します。

神輿渡御（4月12日）



夕方長濱八幡宮から御旅所へ神輿が出発。15日まで神輿は御旅所にあります。

御幣迎え（4月13日）



午前7時、曳山に飾る神移しをした御幣を長濱八幡宮まで迎えに行く儀式です。

籤取り式（4月13日）



出番山の順番を決めるため、籤取り人が、午後1時に八幡宮で籤を引きます。

登り山（4月14日）



昼過ぎから子ども役者を乗せた曳山が4番山から順に八幡宮の境内に入ります。

夕渡り（4月14日）



午後7時、八幡宮から曳山博物館まで子ども役者が舞台衣装で行列します。

朝渡り（4月15日）



午前8時頃、舞台衣装の子ども役者が夕渡りとは逆の順路で八幡宮へと歩きます。

太刀渡り（4月15日）



力士に先導され、甲冑姿で長い太刀を持つ子ども武者たちの行列。長浜曳山祭の始まりとされています。

奉納狂言（4月15日）



長濱八幡宮でくじ順に4つの山組が狂言を奉納します。その後参道や御旅所で上演します。

神輿還御（4月15日）



御旅所で子ども狂言が終わると、神輿が八幡宮へ帰っていきます。

戻り山（4月15日）



神輿が帰ると、長刀組を先頭に曳山が順番に御旅所から各町内へと戻ります。

御幣返し（4月17日）



16日に各山組で子ども狂言を演じた後、17日朝、御幣を各山組から八幡宮へ返します。

曳山のプロフィール

長浜曳山祭は豊臣秀吉が長浜城主の時、戦乱で荒廃した長濱八幡宮を再興した際、八幡宮ゆかりの源義家の凱旋の様子を再現した太刀渡りがはじまりとされています。現在は太刀を飾る曳山1基と子ども狂言の舞台を備えた曳山が12基あります。毎年、長刀組は太刀渡りを行い、12基の曳山は4基交替で子ども狂言を奉納しています。